

学校名	新座市立東野小学校
実施日	令和 4年 1月 18日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「**独自**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、国語科を中心に、学校の教育活動全体をとおして、学校の研究テーマ「主体的に伝え合い学び合う児童の育成」に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、どのように主体的に伝え合う活動ができるかを考えながら、授業研究をす津ことができた。 ・各学年の研修を通して、児童が必要感をもって話し合いに取り組んでいる姿がみられるようになった。また、グループでの話し合いや発表の仕方ができてきたように感じる。 ・研修の成果をどう生かしていくかが、今後の課題と言える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気の中、学習に取り組んでいる。 ・リモートなど、先生方大変さがうかがえた。授業参観でも、先生の工夫がみられた。 ・意見や考えを伝えあうことで、共に学び合い、意欲的に学んでいる。 ・先生方は、子どものために授業を工夫し、よりよいものになろうと努めている。グループの話し合いや発表によって多種多様な意見があることを、子ども達は学んでいる。 ・コロナ禍で、児童の席の配置等、種々の配慮をして授業に取り組んでいる。
2	学校は、ICTを活用し個別最適化された教育の創造をとおして、めざまな学力の育成に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの教科で、ク롬ブックを活用できるようになってきた。また、分散登校時には、教職員が協力、工夫をしてICTの活用を行った。 ・低学年の活用はなかなか難しい。学校全体で考えて行く必要がある。また、教員の技術にも差がある。教え合う機会なども必要である。 ・キュビナ、ロイロノートなどを活用し、さらなる個別最適化の教育を追求していく必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を踏まえて、徐々に取り入れていったほうがよい。 ・ICT活用の必要性が、児童もわかってきたようで、使いこなしが上手だった。 ・冬休みの宿題も、タブレットを活用したもので良かった。 ・キュビナ、ロイロノートの活用、小学校でもとても良いと思う。 ・今年度は、ICT教育が休息に進み、先生方の対応と努力は素晴らしい。子ども達のそれに応えている。今後に期待している。 ・メリットデメリットを理解したうえで活用してほしい。教師の技術向上についてもぜひ、対応してください。
3	学校は、教育活動全体(学級活動・委員会活動含)をとおして、めざまな児童像「自立(ひとり)・共生(なかよく)・健康(たくましく)」の育成に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちで考えて行動する」ことを、教員も意識して指導を行ってきた。その成果があらわれ、考えて行動できる児童が増えてきたと感じる。 ・共生(なかよく)が、今の子ども達のはなかなか難しいところもある。ソーシャルスキルなども学んでいく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の拡大は、児童や保護者の横のつながりを断絶していると思う。共感、協働の学校作りを徐々に回復させていきたい。 ・児童だけでは、自立や共生は難しい。保護者の理解もほしいところだ。 ・洋服のリユースなど、とてもよい活動だと感じた。 ・できることを、できる範囲で行っている。

評価項目「**組織運営**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・主任を中心に、各々がしっかりと役割を果たしている。部会も、必要に応じ適切に行われている。 ・行事に関してはしっかりと反省を行い次に生かしていくことが大切と言える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体育発表会等、担当の先生方を中心に、連携がとれている様子が見られた。 ・しっかりと努力されている。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・主任を中心に、各々がしっかりと役割を果たしている。部会も、必要に応じ適切に行われている。 ・行事に関してはしっかりと反省を行い次に生かしていくことが大切と言える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動のカリキュラムがなかなか創りにくい中、苦勞された結果だと考える。 ・しっかりと努力されている。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、安全点検は定期的を実施することができた。 ・不審者訓練に関しては、児童にもその必要性を理解させる必要がある。 ・校門、西門、東門の開閉、保護者等の車の乗り入れに関しては課題あり。多くの目で、児童の安全を守っていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症のことで、大坂の事件が一層風化したのではないかと。日常的な訓練は、是非とも継続していただきたい。 ・ここ最近の状況を考えると、不審者訓練は必要。児童、コプロレも同様である。 ・不審者情報も、スクールメールで知らされていて良い。 ・保護者の車の乗り入れ、放課後クラブの車等の安全が気になる。 ・しっかりと努力されている。 ・今年度は、必要なとき以外は正門が閉まっていることが多く、安心している。 ・大変だろうが、頑張ってください。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	・学習規律、学習ルールに関しては学校全体で統一されているので、児童も理解しやすい環境にある。 ・教職員の異動によりルールにズレが生じている部分もある。児童の実態を考慮しながら、改善・徹底していく必要がある。	B	・生徒指導と学習指導の有機的な連携が核になると思う。 ・授業内容は、工夫されていると考える。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	・本校の研究主題との関わりもあり、各教科において言語活動を重視した授業を展開してきた。その積み重ねが、少しずつ児童の思考力、判断力、表現力に変化を表しつつあると言える。 ・今後は、ICTを活用しつつ、思考力・判断力・表現力を高めていく必要がある。	B	・「学力向上」の中では、最も高い自己評価である。Cの評価もない。努力の成果が現れているのではないかと。 ・ICTが進んでいるが、対面式の言語活動の大切さも忘れないでほしい。 ・先生方の努力は、子どもや保護者にも伝わっている。子ども思いの先生が多く、感謝している。 ・判断力が大切だと感じる。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	・教職員は、児童の学力向上を目指し、日々、教材研究に励んでいる。ICT活用の指導においても、新しいことにチャレンジし、学び合う姿がみられている。 ・算数の少人数指導や、学年内での教科担任制指導も定着しつつある。今後も、教師の良さを生かしつつ、継続していく。	B	・対話の質をいかに深められるか。大きな課題である。 ・算数の少人数のお陰で、難しく考えていた算数がわかるようになり、本人の自信につながった。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	・3年生以上に関しては、EETや外国語講師と協力して、計画的に指導が進められている。特に、5、6年生では、中学とのつながりも考慮して指導を行っている。 ・低学年は月に1回の授業で、充実しているとは言えない現状である。	B	・例年高い評価であるが、Cが目立っている。中学との連携を徐々に深めてみては。 ・低学年から英語に触れることで、英語に関し親しみを持つことができる。 ・レベルが高く、驚いた。 ・低、中学年の授業時数を増やしてほしい。 ・Cの課題の内容の検討が必要。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	・あいさつや言葉遣いに関しては、日々指導を重ねている。児童も、それをわかっていると思うが、「時と場に応じて」というのはなかなか難しい状況である。 ・あいさつや言葉遣いは教職員の意識を高め、自分自身も機をつけていかななくてはならない。	B	・日常におけるコミュニケーションをいかに創造するか、自己を開放し心のびと表現できる児童を。 ・中にはびっくりするような言葉遣いをする児童がいる。その都度、指導している。 ・廊下ですれ違つと、しっかりあいさつしてくれている。 ・あいさつは、控えめになっていると感じる。 ・あいさつができなくなってきたと感じる。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合つて学校生活を送れるような環境を整備している。	B	・月に1度の生活アンケートや日頃の児童の様子からいじめの実態の把握をし、迅速に対応できるように努めている。また、必要に応じて外部機関との連携も図っている。 ・教職員は、児童の自己肯定感を高める指導に努めている。 ・気持ちのコントロールができない児童、複雑な家庭環境の児童が多くなり、対応が難しい。	B	・場当たりの事にならないよう、授業における価値付けをいかに徹底するか。校内研修の役割は大きいと考える。 ・少しでも心配な児童がいた場合は、早めに保護者に連絡する必要がある。保護者の考えも、難しいが。 ・ネット社会で目に見えないことが多く、把握が難しくなっていると感じる。 ・家庭環境もあるので、なかなか難しいと思う。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	・毎月、生徒指導委員会を実施し児童の規範意識についての振り返りを行い教職員間で共通理解を図っている。 ・教師自身、話し方、態度、服装等は十分気をつけていかなければならない。	B	・先生方の日常的な努力に敬意を表します。多忙な中にも心のゆとりを。 ・何気ない先生の、ちょっとした一言が引っかかっている児童もいる。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	・緊急事態宣言中は校庭での遊びができなかったが、現在は通常に戻っている。また、昨年度よりは、充実した体育の授業、体力向上の取組が行われている。 ・今年度は水泳指導、体育発表会を実施することができた。	B	・世の中の状況は、益々個人重視になっていく。集団で学ぶ喜びを。 ・実現不可能なことは仕方がない。 ・感染予防に努めながら、体力向上に取り組む姿が見られた。 ・水泳は、地元のスイミングスクールを使っては。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	・今年度から食育部を設定し、食育主任をおいた。 ・給食時のメニュー紹介の放送も再開した。 ・コロナ禍ではあるが、昨年度よりは充実した食育指導が行われるようになってきた。今後も継続して食育指導の充実に努めていきたい。	B	・やむを得ない。今しばらくは我慢を強いられる。 ・給食がおいしいと、児童から聞いている。 ・実際に体験することで、食に関しても意識が高まると感じる。 ・アレルギー等への対応、大変だが大切なことと感じる。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	・昨年度よりは、学校教育についての理解を図っていただく機会をつくることができている。 ・保護者や地域の要望や意見は真摯に受け止め、迅速に対応できるよう努力しているものの、なかなか難しいところもある。	B	・状況がよくなり次第、連携協力を深めてください。 ・保護者や地域の、学校への理解は深いと感じている。今後も、情報交換が必要。 ・迅速に対応に努めるが、なかなか難しい→同意見です。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	・学校便りやホームページは定期的に更新し、情報提供に努めている。 ・今後はICTをより活用し、保護者、地域の方に東野小学校を理解していただきたい。	A	・例年、高い評価となっている。 ・ホームページに写真の掲載も多く、行事ごとに更新しているの、学校での様子を知ることができる。 ・ホームページがとても見やすく、わかりやすい。 ・HPが明るく賑やかに、見る回数が増えた。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	B	・学校応援団コーディネーターやボランティアの方々のご協力には、感謝の気持ちでいっぱいである。児童にも、それは伝わっている。 ・今後は、児童とボランティアの方々が一緒に活動できるような場面を、また少しずつ増やしていきたい。	A	・思うような活動ができていないと考える。忍耐、辛抱、我慢で乗り切りましょう。 ・ボランティアや応援団が、もっと増えたいと思う。 ・応援団、ボランティアに支えられている。 ・感染状況を見ながら、子どもが参加できる企画を考えたい。 ・PTA応援団はとてもよい環境なので、楽しく活動している。学校の対応も素晴らしいからだと思う。 ・学校との連携がうまくいっているように思う。